The interactional production of "Shinkon-san": A discourse analysis of a TV variety show featuring newlyweds

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古川, 敏明 , 土屋, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6724

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

大妻女子大学紀要―文系―　No. 51, 平成 31（2019）年 3 月

「新婚さん」の相互行為的産出：

バラエティ番組のディスコース分析

古川　敏明・土屋　智子

【キーワード】 ディスコース分析, マスメディア, テレビ, バラエティ番組, 新婚

1. 導　入

社会言語学はさまざまなディスコースを研究対象としてきた。ディスコースは談話とも言説とも訳されるが，どちらも文脈に埋め込まれた言語使用のことを意味している。言語使用者は特定の文脈で言語を用いることによって対象を創出する。しかし，ディスコースに関心を持つ社会言語学における分析アプローチはひとつだけではない。たとえば，カメロン（2012）は話し言葉の談話分析が用いるアプローチとして，コミュニケーションの民族誌，語用論，相互行為の社会言語学，会話分析，批判的談話分析の 5 つを挙げ，分析の実例を示している。

本稿はバラエティ番組を対象とする話し言葉のディスコース分析を行い，会話分析やエスノメソドロジーの手法を用いる。そして重要な成果が積み上げられてきているメディアにおける言語使用研究への貢献を目指し，長寿バラエティ番組『新婚さんいらっしゃい！』におけるやりとりを分析する。番組の参与者たちが産出する「新婚らしさ」やそれに付随する現象を相互行為中において再特定化することにより，隣接分野としての社会学における家族研究へ貢献することも目指す。バラエティ番組はいわば制度的な世界におけるトークであり，日常的な世界におけるトークとは特徴を共有し重なりつつもずれている。本稿は日常的な世界における「新婚らしさ」について一般化を目指すものではなく，あくまでも，バラエティ番組において刻一刻と変わる相互行為の中で参与者たちによって産み出される「新婚らしさ」をめぐる経験を記述（Bilmes, 2014; フランシス＆ヘスター, 2014）するものである。「新婚らしさ」は所与のアイデンティティではなく，番組中のやりとりにおいて達成されていることを示したい。

次節ではメディアにおける言語使用，家族の社会学に関する先行研究を概観し，バラエティ番組『新婚さんいらっしゃい』の基本的な情報を提示する。続いて 3 節ではデータ収集と分析について説明し，リサーチクエスチョンを特定する。4 節では複数の抜粋を分析し，番組における行為連鎖と成員カテゴリーの連動，「新婚らしさ」構築の詳細を示し，5 節では分析結果をより広い社会的文脈に位置づけ，考察を行う。最後に 6 節では結論を述べ，新たな関連プロジェクトの可能性を模索する。

2. 背　景

2.1　メディアとトークにまつわる先行研究

メディアにおける言語使用は近年，盛んに研究が行われている領域である（e.g., Clayman & Heritage, 2002; Hiramoto, 2012; Hutchby, 2006）。日本語で執筆された学術誌としては『メディアとことば』があり，新旧のメディアにおけるテクストあるいはトークを分析対象とする諸論文が収められている。テクストとトークの境界は必ずしも明確ではないが，本節ではテクストを書き言葉，トークを話し言葉という意味で用いる。

メディアにおけるトークを分析した研究は多岐にわたり，メディア研究の広がりをうかがうことができる。たとえば，テレビ番組の人生相談コーナーのやりとり（Ohara & Saft, 2003），アナウンサーと解説者によるスポーツの実況中継（三宅，2004），テレビ放映された漫才のパフォーマンス（梅本，2007），ラジオ番組における番組パーソナリティーと留学生のやりとり（西阪，1997）がある。これらの研究はどれもテレビやラジオといったマスメディアにおける相互行為に着目しているという共通点を持つが，フレームやフッティングといった概念を用いる分析もあれば，話者交替による連鎖構造と社会のメンバーが用いるカテゴリーの結びつきを分析する研究もある。さらに，テレビのドキュメンタリー番組やCMへのエスノメソドロジー的アプローチを紹介する論考（好井，2010a, b）があり，テレビCMにおけるリズムを含む記号資源をコミュニケーションの民族誌的手法で分析した研究（片岡，2013）もあるように，話し言葉の談話分析アプローチはさまざまである。

こうしたメディアにおけるトークというトピックの中で，特にバラエティ番組を対象とする研究において重要な成果が継続的に発表されている。マリィ（2013）はいわゆるおネエことばについて，歴史的変遷を抑えつつ，番組におけるトークを画面上に現れる文字テロップなどのテクストと絡めて論じることを試みている。また，同じく日本のバラエティ番組における英語使用を分析した博士論文としてFurukawa（2014）がある。本稿はこうした日本のバラエティ番組を対象とするメディアとトークの諸研究の流れの中に位置づけることができる。

2.2　家族，ジェンダー，ライフコース

トーク番組を分析対象とする本論文が特に注目することは，「新婚さん」（あるいは新婚夫婦，新婚カップル）がどのように創出されるのか，それは今日の日本の社会的なコンテクストにおいてどのような意味を持つのか，という点である。この研究は従来行われてきた家族研究，すなわち日本社会における家族関係や夫婦関係の変遷研究などと関連する。この分野は社会学，心理学，歴史学など広範囲に渡っており，近年は多様化する家族形態及びパートナーシップなどの研究が盛んである（岩上，2013）。

この家族研究と呼ばれる領域の中で「新婚」そのものを分析対象にしている先行研究は少ない。新婚期の夫婦を切り口にした研究としては，新婚女性により語られる夫婦間葛藤や反復的な夫婦間葛藤がどのように変化するのかについて分析した心理学における質的研究がある（東海林，2006，2009）。本研究は「新婚夫婦」，「新婚カップル」，それに付随する「新婚らしさ」というものが相互行為としてのトーク番組内でどのように構築されるのかに着目し，近年の多様化する家族研究に貢献したい。ただし，本稿は制度的世界におけるトークの分析であり，日常的世界におけるトークを分析するものではない。しかし，制度的世界であるバラエティ番組における「新婚らしさ」の構築

は，社会のメンバーが日常的世界でも用いる記号資源を動員して行われており，2 つの世界は不可分の関係にある。よって，バラエティ番組における家族カテゴリー使用を分析する本稿は，上述のメディアとトーク（2.1 節）と家族研究（2.2 節）の領域を接合することを通して談話分析研究に貢献することを目指すものである。

2.3 『新婚さんいらっしゃい！』

本稿が分析対象とするテレビ番組『新婚さんいらっしゃい！』は落語家の桂文枝とタレントの山瀬まみが司会を務める視聴者参加型のバラエティ番組であり，毎週日曜日の昼に放送されている。この番組は 1971 年から 40 年以上続く長寿番組である。2012 年の対談記事で桂三枝（当時）は，放送は 42 年目に入り，同一司会者の番組としては最長だと思うと述べている（桂・林，2012）。一方，山瀬まみは 7 代目の女性司会・アシスタントである（桂，2007）。30 年で 1,500 回放送（尾上，2000）されているので，これまでに 2,000 回以上放送されていることになる。また，毎回 2 組のカップルが出演するので，出演カップルの総数は 4,000 組を超える[(1)]。

『新婚さんいらっしゃい！』では司会の桂文枝と山瀬まみがスタジオに視聴者カップルを招き入れトークを行う。トーク後にはゲームを行い，海外旅行などの特典を獲得できるチャンスがある。しかし，視聴者参加型の番組といっても誰でも出演できるわけではない。出演者は番組中や番組ウェブサイトで募集されている。たとえば，ウェブサイトでは「番組に出演してくださるご夫婦募集，ヨーロッパ旅行，ボーナス 10 万，たこやき 1 年分，などをゲットできるチャンス！」と呼びかけている。出演希望者は各地で開催されている予選会に参加し，書類審査と面接で選抜されれば番組出演となる。ウェブサイトから送信できる応募フォームには入籍日の入力欄，その他，「ご主人」と「奥様」の名前，年齢，職業，さらにはふたりの自己紹介や「面白いエピソード」などを入力する欄がある[(2)]。

3. 方　法

3.1　データ収集

毎週日曜日に放送されるテレビ番組『新婚さんいらっしゃい！』（ABC 朝日放送）を録画した。2013 年 12 月 22 日から 2014 年 4 月 6 日までの放送を視聴し，特別編などを除く 15 回分を分析対象とした。番組は 40 年以上放送されているが，本稿が分析するのは近年の放送分であり，司会者である桂文枝と出演者のカップルの世代差がより目立つかもしれない[(3)]。各回は 30 分番組であり，前半に 1 組，後半にもう 1 組のカップルが出演する。したがって，本稿が分析対象とする 15 回分に登場するカップルは合計 30 組であり，録画時間は約 7 時間 30 分である。各放送回を視聴する際は，出演者に関する情報や番組中でのやりとりについてメモを取り，トークを分析するための補助的データとした。

3.2　データ分析

番組中のやりとりを分析するため，上記データベースから特に 5 組のカップルの放送回を選んで詳細な文字起こしをし，連鎖構造と成員カテゴリー化（Sacks，1979）に着目して分析を行った。次節の抜粋で用いられている記号一覧は以下の通り。

トランスクリプトに用いられている記号一覧

.	下降イントネーション	__	強調
,	継続イントネーション	:	長音
?	疑問イントネーション	[	発話の重なり
(1.0)	1 秒のポーズ	-	発話の急な中断
(0.2)	0.2 秒のポーズ	< >	周辺よりも遅い発話
(.)	マイクロポーズ	> <	周辺よりも速い発話
h	呼吸（呼気）	£ £	笑い声
.h	呼吸（吸気）	° °	囁き声
↑ ↓	顕著な上昇・下降イントネーション	*	聞き取り不可
(( ))	備考		

本稿で明らかにしたい問いは 3 つある。まず，⑴番組のルーティンはどのようにして組み立てられ，司会者とカップルはそれぞれどういった役回りをしているか。本稿は番組における「新婚らしさ」の構築を分析するものであり，「新婚らしさ」の構築は番組の制度性（あるいは参与者間の非対称性）と何らかの結びつきがあるのではないかと予測される。また，⑵番組の参加者が構築する「新婚」とその属性についての共通の認識はどのようにして達成されているか。そして，⑶出会いや結婚生活といった異なるライフステージがどのように語られているのか。こうした問いを明らかにするため，次節では司会者とカップルのやりとりを分析する[4]。

4. 分　析

本節では 5 組のカップルの放送回について詳細な分析を行う。以下にカップルの一覧を示す。

事例	放送日	出身地（居住地）	夫	妻
#1	2014 年 1 月 5 日	埼玉県	55	25
#2	2014 年 1 月19日	佐賀県	29	29
#3	2014 年 3 月 9 日	愛媛県	27	28
#4	2014 年 3 月16日	宮崎県	28	31
#5	2014 年 4 月 6 日	広島県	46	47

ここでは『新婚さんいらっしゃい！』という番組の制度性を特徴づける連鎖構造とカテゴリー使用を示したい。そうした特徴はデータ中に広く見られ，この 5 組だけに限定されるものではない。核となる連鎖を示すことができ，且つ抜粋として長すぎない例を選択した。

番組の冒頭でカップルが自己紹介をする際，画面上には出身地（実際は現在の居住地），夫の姓名と年齢，妻の名前と年齢が表示される。表には，姓名を示さずに，出身地と年齢のみ示し，放送日についての情報を付記した。その他の属性については，各組の抜粋を引用する際に分析に必要な情報を示す。なお，抜粋中では出演者が名前を名乗る場面に関して，放送された通りに文字起こしをしており，偽名は用いていない。抜粋では参与者を「KB」（桂文枝），「YM」（山瀬まみ），「夫」，「妻」と表記している[5]。

4.1　番組はどのように始まるか

番組では毎回，2 組のカップルが出演し，それぞれ 10–15 分程度，司会とトークを展開する。「最初の新婚さん」とは 1 組目のカップルのことである。1 組目のカップルが退場すると，2 組目のカップルがステージに招かれる。番組の開始点ではおきまりのルーティンが行われる。なぜ番組の始まりのやりとりを分析するのかというと，冒頭部にはおきまりのやりとりが多く現れるからである。具体的には司会者による呼びかけ，出演カップルの登場，挨拶，着席，カップルの身体的特徴や服装などに着目した会話，名前・年齢・夫の職業・出会いに関する一連の質問が短時間で行われる。番組を特徴づけるルーティンは冒頭部に集中しており，これらを記述することで番組の制度性を記述することを目指す。もちろん，ルーティンは冒頭部以外の場所にも現れるので，4.2 節で終結部，4.3 節以降でそれ以外の中盤におけるやりとりを分析する。

以下の抜粋は 1 組目のカップルがステージ上に招かれる場面である。司会の桂文枝（KB）が椅子に座った状態で「最初の新婚さんの登場です」と述べる発話は，観覧している観客及び番組の視聴者に向けてデザインされている。続いて KB が「新婚さん」とまで述べたところで，番組アシスタントの山瀬まみ（YM）も発話を開始し，2 人で「いらっしゃ：：い」と述べている[(6)]。KB と YM の発話は幾重にも多機能的かつ多声的である。彼らの発話は出演者のカップルをステージ上に招き入れ歓迎する（実際，5 行目でカップルがステージ上に現れる）と同時に，観客や視聴者に対して番組の開始を宣言するものでもあるからだ。さらに，番組名の一部「いらっしゃ：い」はかつて KB 自身がヒットさせたギャグでもある。

抜粋 1（事例＃2）：迎え入れ

01	KB	最初の（.）新婚さんの登場です.
02		新婚さん（.）[いらっしゃ：い.]
03	YM	.h [いらっしゃ：：]：い.
04	観客	((拍手，9 行目の KB の発話冒頭まで継続))
05	夫＆妻	((手をつないで入場))
06	YM	こんにちは：.
07	妻	(こんにちは：.)
08	YM	どうぞ：.
09	KB	＊和服ゆ：のひさしぶりです[(ね).]
10	YM	[ね：]え：
11		(0.5)
12	KB	え：：(.) ね：＝
13	YM	＝いいですね.
14	KB	いいですね.＝
15	YM	＝う：[ん]
16	妻	[あ]りがとう[ございます.]
17	KB	[ははは.　]
18	YM	hhh h

カップルがステージ上に現れると，YM はカップルをさらに招き入れる。ステージには観客と向かい合うように椅子が 2 脚ずつ配置されており，一方には司会者たちが，もう一方にはカップルが座るようになっている。KB と YM は立ち上がってカップルを迎え入れ，9 行目で KB が妻の服装が和服であることを話題にし，出演者が和服で登場するのは「ひさしぶり」であるから「いい」という評価を YM と協働的に行っている。妻が司会者たちによる賞賛を受諾すると（16 行目），KB

は笑いで応じ，全員が椅子に座る。ここでゲストを迎え入れるという活動が終結し，次の活動である自己紹介の行為連鎖へ続く。

すぐ後に続くやり取りが次の抜粋である。ここではカップルの自己紹介が行われている。自己紹介を開始するのは，「お名前とお年からどうぞ」という（KB ではなく常に）YM による要請である。この時，画面にはカップルの氏名，年齢，出身地が表示されている。氏名に関しては，夫は姓名ともに表示されているが，妻は名のみであり，妻は夫と同じ姓であることが含意されている。

抜粋 2（事例＃2）：名前と年齢

19	YM	お名前とお年からどうぞ.
		((効果音とともに画面にプロフィール表示))
20	夫	はいっ（0.5）え：佐賀県（.）佐賀市から（.）来ました（.）
21		吉原祐大（(よしはらゆうだい)）（.）29 歳,
22		(0.4)
23	妻	.h 妻（.）麻里（(まり)）29 歳.
24		(0.3)
25	KB	佐賀県.
26		(0.5)
27	妻	はいっ.
28	KB	がばいばあちゃんや[7]
29	YM	う：ん[そう　]だ
30	妻	[(はい)]
31	KB	(ん：)
32	YM	([*])
33	妻	[が]ばいです.

YM の要請（隣接ペアの第一成分）に，夫が応じて，出身地と氏名，年齢を述べる。続いて，妻が自己紹介をしている。このやり取りをもう少し詳しく分析すると，出演者の名前と年齢を尋ねる発話は毎回行われ，尋ねるのは常に YM，質問に最初に応答するのはカップルの夫である。夫は名前と年齢だけでなく，出身地も関連性のある情報として提示している。夫の発話に続いて，妻が関係性ペアの一方（妻）を動員して，男性（夫）との関係性を特定し，その後で名前と年齢を述べている（妻，麻里 29 歳）。ここで，YM が開始した隣接ペアが完了している。

また，23 行目における妻の発話に見られる定式化（妻，麻里 29 歳）には，先行する発話と状況に関する妻の理解が示されている。つまり，妻は夫との関係性を特定する必要があり，妻の姓と出身地は夫のそれと同じであるから繰り返す必要がない，という理解である。また，妻の発話デザインと夫の発話デザインを比較すると，妻が「妻，麻里 29 歳」と述べているのに対し，夫は「夫，祐大 29 歳」とは述べていない。出演者を代表して名前だけでなく姓名を述べるという行為は，出演者の夫というカテゴリーと結びついた活動である。『新婚さんいらっしゃい！』はトーク番組という制度的な世界で行われる活動であり，2 人の出演者の役回りは非対称な形で事前に配分されている。つまり，出演者の夫はこうふるまい，出演者の妻はこうふるまうのだという規範に志向している。出演者たちは上記のように隣接ペアの第二成分を産出することで，自分たちを夫婦として提示し，そうふるまっている。ここでは連鎖構造と成員カテゴリー化が結びついていることがわかる。

KB は 25 行目で，夫が述べた出身地を話題にして質問をしている（佐賀県）。妻が出身地を確認すると（はいっ），KB は佐賀県のことばを含む小説のタイトルを話題にする（がばいばあちゃんや）。アシスタントの YM はこの KB の指摘に同意を表明し（う：んそうだ），佐賀についての認

識を社会的に共有されたものとしている。33 行目で妻は「がばいです」と述べ，司会者たちの指摘のとおりであると承認し，佐賀出身者というエキスパートとしてふるまっている。名前と年齢に加えて，出身地についての確認が済むと，参与者たちは次の活動に移る。

次の活動とは，夫の職業についてのやりとりである。34 行目で，KB が話題を転換した上で，夫に対して質問をする。

抜粋 3（事例＃2）：夫の仕事

34	KB	で（.）仕事は？
35		(0.2)
36	夫	福岡県（0.2）のえ：銀行で営業ばしよるです.
37		(0.5)
38	KB	*んで佐賀から福岡へ：通ってる.
39		(0.3)
40	夫	通ってる.

KB の質問に対して，夫が答え，最初の隣接ペアが終結する。すると，38 行目で KB はすぐに別の隣接ペアを開始し，夫が応答している。2 つの隣接ペアはともに，質問と答えという連鎖で終結させられており，KB が第 3 の位置で，「営業か：」や「福岡まで通ってるのか：」などといった評価を行っていない。司会者と視聴者にとって，まだ十分人物像が明らかになっていない夫に関する情報を次々に引き出すことが目的であり，その目的がある程度果たせたならば，次の抜粋にあるような，番組の性格を特徴づけるおきまりの質問へと移行するのである。

41 行目で KB が次の発話者として選択するのは，妻である（きっかけは？（.）奥さん）。「きっかけ」とはカップルの出会いのきっかけが何かということであり，2 人はどのようにして知り合ったのか，という語りがうながされている。

抜粋 4（事例＃2）：出会い

41	KB	きっかけは？（.）奥さん.
42		(0.6)
43	妻	中学 2 年生のときに：
44	KB	うん
45	妻	いっていた：(0.2) 栄進館（(えいしんかん)）
46		っていう塾で：出会いました.
47		(0.3)
48	KB	ほいで

KB の質問（隣接ペアの第一成分）を受け，妻は 43 行目で応答を開始している（中学 2 年生のときに：）。しかし，他の放送回でも見られるように，妻は単に応答を始めただけではなく，出会いについての語りのモードに入っており，KB が 44 行目で最小限の応答（うん）をし，48 行目でさらなる語りのうながし（ほいで）を行っていることから，話者交替の規則が会話から物語のそれへ切り替えられ，発言権が物語の語り手として指名された妻に帰属させられている。

「きっかけ」に関する問いは，上記の抜粋のように，「きっかけは？（.）奥さん。」と妻に対して明示的に向けられることもあれば，「きっかけは？」とだけ問いかけられることもある。しかし，どちらの定式化が採用されたとしても，この問いかけを行うのは常に KB であり，KB が次の話者

として選択するのは常に妻である。妻は主たる語り手として出会いについての語りを開始するが，その後，夫が次の話し手として司会者に指名されたり，あるいは夫が自らを次の話者としたりすることで，妻も夫も出会いに関する語りに参与していく。「きっかけ」がどうであったかは，番組構成上，大きな意味を持っているが，KBの発話のデザインは極めて簡素であり，妻（と場合によっては夫）に語らせるという方策を採っている。換言すれば，問いかけがシンプルであるからこそ，その後に続く語りのはちゃめちゃさが際立つともいえる。きっかけについての語りとやりとりは，例外なく長く拡張された連鎖を産出する。きっかけについての語り，そして次のライフステージである新婚生活についての語りに登場する話題については，別の節で詳細に分析を行うので，ここでは個々のエピソードの抜粋を示すことはしない。

きっかけについてのまとまった行為連鎖の後に続くのは，次の抜粋に見られるようなおきまりの質問である。番組タイトルの一部を含む「新婚生活はどうなんですか」という問いかけは，番組の内容を産出する上で鍵となる社会的行為といえる。ここで次の話者として話し始めるのは夫の方である。

抜粋5（事例#2）：新婚生活

01	KB	［あ：　］
02	YM	［ふ：ん］
03	KB	ほいで新婚生活はどうなんです［か　　］.
04	YM	［hhh　］
05	観客	［((笑い))］
06	夫	もともとあの：ぼく：(0.2)
07		福岡県の久留米：(0.6) 出身で：
08	KB	うん
09		(0.3)
10	夫	あの：佐賀に来たから：
11	KB	うん

出会いのきっかけに関する語りの行為連鎖と同様，KBの質問（隣接ペアの第一成分）の後，2行目で夫が応答（隣接ペアの第二成分）し始めると，KBは応答を最小限に抑制し，夫に発言権を保持させている。新婚生活について語り出すのは妻のほうかもしれないが，その場合は妻が発言権を保持する。司会者たちは語りの中に質問やコメントをし得る対象を特定して，それを新たな話題として導入するまで，最小限の応答をすることになる。きっかけに関する語りと同様，新婚生活についての語りをめぐる行為連鎖も長く拡張された連鎖構造となっていく。

以上が，あるカップルの出演枠における冒頭部の行為連鎖の構造である。次の節でも，番組のルーティンについての説明を続け，同じカップルの出演枠の終結部の行為連鎖の構造を示す。

4.2　番組の終結部

新婚生活についての質問で開始された行為連鎖において，夫は元々自分は福岡県出身で，現在は結婚をして妻の実家がある佐賀県に住んでいると語り始めていた。佐賀県での新婚生活に関するやりとりがしばらく続いた後，司会者とのやり取りの中で，妻が妊娠中であることが明かされる。抜粋では示していないが，妻は医師であり，銀行員である夫は実家が病院である妻の家に婿入りしている[8]。子どもができたことが話題になった後，こうした文脈において，1行目でKBは夫に向けて発話を開始し（これからは），このカップルとのトークを収束させていく。終結部に到達するま

では出演カップルに「新婚」というカテゴリーが付与されていたが，終結部では出演カップルは「新婚」というより，単なる「夫婦，カップル」というカテゴリーが付与されている。

抜粋 6（事例＃2）：終結部

01	KB	これからは
02		(0.3)
03	夫	はい
04	KB	男か女かわからんけど：子どものため[に]
05	YM	[う]：ん
06		(0.3)
07	KB	がんばって：
08	夫	はい
09		(0.2)
10	KB	いつかは病院に（0.2）入って：
11	夫	((うなずく))
12	KB	ちょっとでも大きな病院にするように
13		(0.3)
14	夫	はい
15		(0.5)
16	KB	((礼)) ありがとうございました
17	YM	((見えないが礼？)) ありがとうございました：
18	夫＆妻	((礼))（ありがとうございました）
19	観客	((拍手))
		((KB，YM，夫＆妻全員立ち上がり，KB とカップルが礼，YM は礼をしない，カップルは手をつないで退場))
		((画面に「全国の新婚さん大募集！！！」の表示))[9]

KB は「これからは」と述べて，将来に向けた発言をすることを予期させ，夫もそのように KB の発話を聞いていることが 3 行目の最小限の応答（はい）に示されている。4 行目で KB が発話を続けると（男か女かわからんけど：子どものために），5 行目で YM は「うん：」と承認と聞くことができる継続詞を発話し，KB が投影する夫への励ましをうながし後押しすることで，もう 1 人の司会（番組アシスタント）としてふるまっている。7–14 行目にかけては，先行する行為連鎖と同様，KB による発話に対して，夫が（「はい」あるいはうなづきという）最小限の応答で応じている。16 行目で KB は夫への励ましから一転して，礼をし，カップルに対して感謝の発話をすることを通してトークの終了を宣言する。これに続いて，YM も KB と同様に感謝の発話を行う。すると，司会者たちのトーク終了宣言を受けて，18 行目でこれまで KB の発話の直接の受け手となっていなかった妻も加わったカップルが 2 人で礼をし，感謝の応答を返している。19 行目ではステージ上のやりとりを見届けた観客による拍手が起こる。

この直後，司会者たちとカップルが席から立ち上がって礼を交わし，カップルが退場する。（退場時に手をつなぐのは，「新婚」というカテゴリーに付随する親密さの記号的表現であるといえるだろう.）この間，画面には出場者募集の告知が表示されている。トークの終結部の行為連鎖が参与者全員によって協働的に産出され，トークが終結したという認識が相互行為的に共有されていることが見て取れる。

4.3 「新婚らしさ」の構築

事例＃1のカップルは30歳の年の差婚である。また，できちゃった婚でもあり，妻の妊娠がわかってから，夫が妻の父に結婚の挨拶に行った逸話が語られる。「きっかけ」についての語りが終結した後のやり取りが以下の抜粋である。1行目でKBがお決まりの問いかけを行う。

抜粋7（事例＃1）：幸せです

01	KB	で：新婚生活ど：なの.
02		(1.0)
03	夫	幸せです：
04		(0.2)
05	KB	うん
06		(0.6)
07	夫	すごいあの：よくやってくれるんで：
08		((妻を指す)) すごい (.) 幸せです.
09	KB	奥さん今はえ：けど
10		もうすぐ (.) 介護に入ってい［くのよ：］
11	夫	［hhh　］
12	観客	［((笑い))
13	妻	一応：介護の：免許は持ってるんで＝
14	KB	＝［え：］
15	YM	＝［え：］すご：い.］
16	観客	［((笑い))　］
17	YM	もってこい.
18	妻	［hhh　］
19	観客	［((笑い))］
20	KB	それはこの人のために取ったわけ：.
21	妻	いやそ(h)：(h)んなことは ((手を振る))
22	夫？	hhh
23	KB	あ (.) 前から.
24	妻	はい.
25	KB	あ：よかったね：.
26	夫？	［すんません.］
27	観客	［((笑い))　］
28	KB	あ：せやからも：いつ：(0.2)
29		どないなっても大丈夫.
30		(0.5)
31	妻	大丈夫ですね.

KBの問いかけの後，3行目で夫が隣接ペアの第二成分を産出する（幸せです：）。さらに7–8行目で夫は理由を付け加え，「すごい幸せです」と格上げした応答を行っている。夫は幸せでも，妻も同様に感じているかはまだ不明である。次に9行目でKBが行うのは妻に向けた発話であり，30歳の年の差を皮肉った現状分析を行うと，この発話を面白おかしい皮肉と聞いた観客が12行目で笑う。さらに，13行目で妻は自分が取得済みの資格を明らかにすることで，31行目には皮肉を込めて表明された夫婦の将来への懸念を一掃している（大丈夫ですね）。

上記の抜粋では，「で：新婚生活ど：なの」という KB のお決まりの問いかけは十分に答えられたように見える。新婚生活は幸せであり，将来への懸念に対する対策もあるからである。しかし，新婚生活についての問いかけは，新婚生活が額面どおり大過なく行われているか気遣う行為ではない。上記の抜粋の直後に続く以下の抜粋では，KB が夫の「幸せです」という応答を自らの問いへの応答としては不十分なものとして扱い，さらなる応答を求めている（他にはどうですか。新婚生活の中で：）。

抜粋 8（事例＃1）：このハゲ

28	KB	他にはどうですか．新婚生活の中で：．
29		(0.4)
30	妻	服：((夫を指す)) とかをぬ– 脱ぐんですけど：
31	KB	うん
32		(0.6)
33	妻	そゆ：ときにも：
34		そのまんま（.）そのまんまにするんですよ：
35		(0.4)
36	YM	脱ぎっぱなし？
37	妻	((うなづく)) 脱ぎっぱなし[に　]するんですよ：
38	YM	[うん]
39	観客	((笑い))
40	KB	それは[ちゃんとやった[らんと
41	？	[(おじいちゃん)
42	？	[(ね)
43	KB	奥さんも子育てが大変なんやから：
44		(0.6)
45	KB	なんでそんなことすんの：
46	夫	ま　あの：子育てのほうはあの：分担して：結構：
47		協力はしてるんですけれど：
48	KB	[うん]
49	夫	[どう]しても自分の脱いだ物は .h
50		どうしてもめんどくさく（h）て（h）：
51		後回しに：.h しちゃうんですね：
52	KB	ん：．
53	夫	.h で：そのうちに：
54		あの：脱いだものを忘れ（h）て（h）て（h）：
55	観客	[((笑い))　　]
56	夫	[片づけないと：]
57	KB	うん
58	夫	((妻を指す))
59		すごい怒られるんで[(すけど：)]
60	KB	[ど：ゆ：　]ふ：に怒られんの．
61	夫	このハゲ：
62	KB	[え：　　]
63	観客	[((笑い))]
64	KB	((椅子から転げ落ちる))
65	夫	hhh
66	YM	((椅子を元に戻す))

今度はKBの問いかけに応答するのは妻であり，妻は繰り返しを含むKBの問いかけを「問題の報告への誘い」として聞いていることがわかる。妻は29行目で応答を開始し，夫が服を「そのまんまにする」と報告しているからである。アシスタントのYMが妻の発話を問題の報告として聞き，「脱ぎっぱなし」という問題として修復・定式化すると，妻はうなづき，修復・定式化を受け入れて問題の認定を行い（脱ぎっぱなしにするんですよ），観客が笑う。

問題の認定が行われた後，40行目でKBは夫に対して問題の改善を求め，その直後に問題を起こす動機について尋ねる。46行目で夫は弁明し，動機を述べて説明を行う。KBは最小限の応答をするだけで，夫による語りをうながす。夫は53行目以降も発言権を保有して語り続け，59行目で「脱ぎっぱなし」と関連する新たな「問題の報告」を開始する（すごい怒られるんです）。「怒られる」だけでなく，「すごい怒られる」のは新婚さんというカテゴリーに付随する属性とは不釣り合いのように聞こえる。

60行目でKBが夫の報告を受けて詳細な説明を求める（ど：ゆ：ふ：に怒られんの）と，61行目で夫は妻の発話を引用して（このハゲ：）怒られる様子を再現して応答する。この応答に対し，KBは驚きの声を上げ（え：），さらにこの番組のお決まりのパフォーマンスを行い，椅子から転げ落ちる。司会アシスタントのYMは黙って転がった椅子を起こして元の位置に戻し，観客は夫の発話（このハゲ：）とともに司会者たちによる一連の行為に笑いで応じている。KBが椅子から転げ落ちるパフォーマンスは，出演カップルの言動がはちゃめちゃなものと評価すると同時に，自身の驚きを可視化する行為である。この場面で驚きに値する言動と評価されているのは，番組で珍しくない性的な描写ではなく，「新婚さん」さらにはこの関係ペアを構成する「新妻」というサブカテゴリーに似つかわしくない，相手に対する蔑称の使用である。抜粋では示さないが，実際，この後のやりとりでKBが「奥さんもきついね」「優しい顔して」という発話を行う。しばらくこの話が続き，カップルへの励ましが行われ，このカップルの回は終了する。

以上の抜粋から観察されるのは，新婚生活について問うお決まりの質問は，「問題の報告への誘い」であるということだ。「問題の報告」は新婚さんに似つかわしくない内容であることが求められているので，十分な「問題の報告」が行われない場合，司会のKBが再度「問題の報告への誘い」を行う。出演カップルもKBの問いかけをそうしたものとして聞き直し，自らのカテゴリーと齟齬を来す可能性がある言動にまつわる逸話を提示する。事例＃1のカップルは，夫による最初の応答が不十分であると判断され，再度語りへのうながしの後，妻が夫にまつわる「問題の報告」を行い，それに付随して今後は夫が妻について第二の「問題の報告」を行い，新婚さんにあるまじき言動が積み重ねられた。それでもやはり，このカップルはまぎれもない「新婚さん」なのであり，だからこそ新婚さんであることと新婚さんらしくない言動の対比が有意味となる。

しかし，新婚生活についての問いに対し，別の応答の仕方もある。「問題の報告」という装いを持ちつつも，新婚生活についての「のろけ」を行うことで，司会のKBには十分な応答として扱われるのである。単に「幸せです」という応答は十分な応答とはなり得ない。別のカップルの放送回においても，この点を観察することができる。以下の抜粋に先行するやりとりでは，妻による語りが行われていて，監査の仕事をする夫はプライベートでも金銭に細かいが，妻の友人たちからは浪費家であるよりも良いという評価を受けているという逸話が語られる。その直後，1行目でKBがお決まりの質問をしている（ん：：：で結婚生活はいかがですか？）。

抜粋 9（事例＃3）：ペンギン走り

01	KB	ん：：：.h で結婚生活はいかがですか.
02		(0.5)
03	妻	いや：.h なんか：：
04	KB	ん：
05	妻	外では：
06	KB	[ん：]
07	妻	[こう]：しっかりしてて：
08	KB	うん
09		(0.3)
10	妻	ま（1.0）い：んですけど：(0.2) 家：帰ったら：
11		(0.4) [た　]だいま：
12	KB	[うん]
13	妻	ってゆ[って]
14	KB	[ほ　]：ほ：
15		(0.6)
16	妻	ペンギン走りで：近寄ってきて：
17	KB	ふん[ふん]
18	YM	[h　]hhh
19	妻	加奈枝ちゃん（0.6）チューして[(0.2) って.]
20	観客	[((笑い))　]
21	KB	うん＝
22	妻	＝ちょっと賢ちゃんごめんけど：(0.3)
23		後にしてくれ：んって
24	KB	うん[うん]
25	妻	[ゆ：]んですけど：
26		いや：(.) 今がいいんよ：＝((だだをこねるように))
27	観客	＝((笑い))
28	妻	お願いお願い：ってゆ：んです.
29		(0.3)
30	KB	そんなん（かさ）高ない：あんた：
31	YM？	hhh
32	観客	((笑い))
33	KB	1 メ[ートル]90（[何]*）((立ち上がって))
34	YM？	[hhh　]
35	YM	[上]の方から
36	KB	((ペンギンのまね))
37	観客	[((笑い))　]
38	YM	[hhhh　[hh]]hh
39	妻？	[hh]
40	KB	((カップルのほうを向き，夫を指差して))
41		ちょっとどれどんな感じやの：ちょっと：
42	観客	((笑い))
43	KB	.h ペンギン走りして＝
44	夫	＝いや：
45	KB	一回りしてここへ座ってよ：
46	夫	(.) °いや：ちょっと***° ((妻を見て))
47	妻	やり[[づ]らいからはやく]
48	夫	[h]
49	観客	[((笑い))　]
50	KB	ちょっとやってみ：や：
51	妻＆夫	((立ち上がり移動開始))
52	観客	((笑い))

KBによる質問の後，3行目で妻が応答を開始する。KBは最小限の応答を産出し，発言権は妻に委ねられている。妻は先行するやりとりで述べたように，5行目で家庭の外における夫の評価について肯定的に述べる。10行目の途中から，家庭内外における夫の評価を対比し，問題の報告を開始したことが示されている（ま（1.0）い：んですけど：（0.2）家：帰ったら：）。11行目と13行目で妻が引用を用いて報告する夫の行動（ただいま：ってゆって）はごく普通の行動として提示されているが，妻は16行目で「ペンギン走り」という表現を導入し，190センチ以上あるという大柄な夫には似つかわしくない，かわいらしい行動を描写する（ペンギン走りで：近寄ってきて：）。17行目でKBはさらなる語りをうながし，18行目でYMは笑っている。妻は語りを継続し，19行目から28行目まで夫婦のやりとりを引用を用いて再構築している。妻のパフォーマンスに対して，30行目でKBが部分的に不明瞭な発話で妻の語りに登場する夫婦の言動に対して驚きを示している。さらに31行目でYMが，32行目で観客が笑いで応答する。

KBは33行目で夫の身長にまつわる属性を繰り返し（1メートル90（何）），36行目でペンギンのまねをして，夫のような大柄な男性とそれに付随する属性に齟齬があることを示す。すると，40行目でKBはカップルの方を向き，妻が描写した帰宅時のやりとりを再現するように要請する。夫は44行目で要請を断ろうとするが，KBが50行目で再度要請すると，カップルは席から立ち上がりステージ上でパフォーマンスを行う準備にとりかかる。このようにカップルがさまざまな実演を行うことがあるのも番組の特徴のひとつである。上記の抜粋は，KBの問いかけに対し，妻が応答した「問題の報告」の装いを持って始まった語りが，途中から新妻による「のろけ話」に組み替えられていく過程を示している。抜粋は示さないが，この後，カップルはもう一度，ペンギン走りを含む夫の帰宅後のやりとりを実演することになる。これによって，新婚生活に関する質問に十分応答したとKBがみなしたことが以下の抜粋に示されている。2回目の実演を終えた直後に，KBが問いかけ（それでどやの：奥さん），短い行為連鎖の後，このカップルの回が終了する。

抜粋10（事例＃3）：毎日楽しいです

01	KB	それでどやの：奥さん.
02		(0.6)
03	妻	毎日楽しいです.
04		(0.3)
05	KB	よかったね：
06	妻	はい：
07	KB	もう奥さんの思いどおりに：
08	妻	((うなずく))
09	KB	ずっと進んで：
10	妻	はいっ
11		(0.5)
12	KB	これからもそ：ゆ：道を（.）歩んでいただきたい
13		と思います. ＝ありがと[うございい（ました）　　]
14	YM	[ありがとう[ございまし]た. ＝
15	観客	[((拍手))
16	夫	＝ありがとうございました.
17	妻＆夫	((礼))

KBの問いかけの後，3行目で妻は「毎日楽しいです」と応答し，5行目でKBは「よかったね：」

と応じる。妻の「毎日楽しいです」という応答は，事例＃1のカップルの夫による「幸せです」という応答と類似しているが，ここではKBによる問い直しが行われておらず，KBが妻に向けて励ましを行った後，収録終了が宣言される（ありがとうございました）。妻は「問題の報告」を装って「のろけ話」をし，カップルは2回実演したので，妻の「毎日楽しいです」という応答が十分な応答として扱われている。

「問題の報告」が「のろけ話」として聞かれるという例を示したが，別のカップルが登場する以下の抜粋で「問題の報告」は新たな行為連鎖を生んでいる。社内恋愛をした事例＃4のカップルは，妻は先輩社員として，夫を含む新入社員の教育係を務めていた。しかし，夫は結婚後の問題の報告を行い，妻は家庭では服を脱ぎっぱなしにしたり，使用済みのティッシュをそのままにしたりすると述べる。1行目でKBは夫に向けて質問をする。KBの質問は軽い非難となり，妻に矛先が向けられる。すると，妻は30行目で起死回生ともいえる発話を行い，非難をかわす。抜粋を理解するのに必要な前提知識として，このカップルはできちゃった婚であり，すでに第一子がいるという点を挙げておく。

抜粋11（事例＃4）：そんなことばっかやってる

01	KB	あんたそのつきお：て[る：]ときに
02	夫	[h　]
03	KB	そのだらしなさ[ゆう]のはわからへんかった.
04	夫	[h　]
05	観客	((笑い))
06	夫	.h 全く出さなかったですね.
07		.h [この研]修担当ってゆう
08	YM	[あ：]
09	夫	きりっとした：＝
10	KB	＝あ　きりっと[した]研修担当[や　]
11	夫	[***]
12	夫	[はい]
13	夫	年上のしっかりしたお[姉さんだってゆう]
14	KB	[あ：しっかりした]
15		お姉さんや[ゆう]感じや
16	夫	[はい]
17	KB	[からね：.
18	夫	[いい人がおったんですけども
19	？	h
20	KB	.h 奥さん
21	妻	はい
22		(0.2)
23	KB	ティッシュくらいはあんた：捨てなさいよ：
24	妻	((うなづき，夫を見る))
25	KB	部屋[を　]きれいに[すると　]か：
26	夫	[うん]
27	妻	[うんうん]
28		((うなづき，視線をKBに戻す))
29	妻	ん：
30	KB	どう？

31	妻	.h じゃあ（0.8）出産したらがんばり(h)ま(h)す．h
32	KB	え？
33	YM	ん？
34	妻	£今7ヵ月目(h)な(h)°んで°£
35	観客	*
36	KB	また入ってるの．
37	妻	はい．
38	観客	((笑い))
39	KB	そんなことばっかりやっ[て（る）
40	観客	[((笑い))
41	妻&夫	[((笑い))
42	妻	((うなづく))
43	KB	で（は）出産したらがんばっ[て（ください）]
44	YM	[がん[ばって]：]
45	夫	[hh]
46	妻	はい．[hh]
47	KB	[あり]がとうございま[し[た．
48	YM	[ありがとうございました：
49	夫	[ありがとうございました．
50	観客	((拍手))

KBが夫に対して，妻の「だらしなさ」に気がつかなかったのかと問うと，6行目で夫が応答し，妻はそうした性質を出さなかったと述べる。さらに，夫は「研修担当」（7行目）や「年上のしっかりしたお姉さん」（13行目）といったカテゴリーを列挙し，KBはこうしたカテゴリーを繰り返すことで，ふたりは協働的に妻がかつて帰属していた社会的カテゴリーとカテゴリー付随の属性を喚起し，それらを妻の実際の行動と対比させている。夫は現在の妻の問題行動を予測することはできなかったことを暗示し，18行目で現在の状況を嘆くことによって（いい人がおったんですけども），問題の報告を終結させている。

KBは夫の問題の報告を聞き終えると，20行目で妻に向けて発話を開始し（奥さん），妻は自分が聞き手であることを示す（はい）。続いて，KBは23行目で妻に対して夫の代わりに家庭内の問題の改善を求める（ティッシュくらいはあんた：捨てなさいよ：）。妻はうなづいてKBの要求の内容を理解したことを示し，夫に視線を向ける。妻が夫に視線を向けている間も，KBは25行目で発話を継続し，さらに要求を追加する（部屋をきれいにするとか：）。妻は繰り返しを用いて，要求の内容を理解していることをより明示的に示す（うんうん）。その後，妻は28行目で夫からKBに視線を戻している。妻はここまでKBの要求の内容を理解していることを示しているが，要求を受け入れるかの判断を保留しているようにみえる。まさにKBによる妻のうなづきとあいづちの理解もそのようなものであり，KBは30行目で妻からの回答を要求する（どう？）。

妻はこれを強制力のある質問として聞き，31行目で「じゃあ，出産したらがんばり(h)ま(h)す」と応答する。妻の応答はここまでの状況の理解から乖離している。なぜなら，出演カップルは第二子について全く話題にしていないからである。KBとYMが意外な応答であるとして聞き返すと，妻は妊娠「7ヵ月目」であると答える。KBがさらに確認の質問をすると（また入ってるの），観客が笑い，KBの質問をあきれを含意するものとして聞いていることを示す。妻が「はい」と確認を完了すると，KBは「そんなことばっかりやって（る）」と述べて，あきれの含意をより明示化す

る。「そんなことばっかりやって」るのは「新婚さん」というカテゴリーに付随する属性であり，妻は「新婚さんらしさ」を喚起する強力なカテゴリー付随属性を動員して批判をかわしている。さらに，KB もこのカテゴリー付随行為に対して同様の理解を示し，観客による後続する笑いにもみられるように，参与者たちが協働的に「新婚らしさ」を産出している。ここでは，子作りをすること（あるいは夫婦の営みをすること）は新婚の属性ではあるけれども，その行為が度を越すと否定的な評価につながりうるという規範に参与者たちが志向していると考えられる。

妻は 42 行目でうなづき，KB のあきれを含意する質問を肯定して，「新婚さん」としての属性を受け入れている。最後に，KB は妻に対する励ましを述べて，そのままやりとりが終結する。

4.4　新婚らしくなさ

番組に出演するカップルは，結婚して 3 年以内という条件を満たしていなければならないことになっている。しかし，あるカップルが番組に出演したとしても，必ず「新婚さん」とみなされるわけでない。つまり，新婚とは所与のアイデンティティではなく，相互行為中のトークにおいて参与者間で成し遂げられなければならないのである。以下は 2014 年 4 月 6 日放送回からの抜粋で，夫婦はこの日 2 組目のカップルである。夫婦がステージ上に登場すると，1 行目で KB が座るようにうながし（どうぞ），カップルが席に着くと，2 行目で YM が隣接ペアの第一成分であるお決まりの質問をする（はいっ，それではお名前とお年からどうぞ：）。すでに番組冒頭部の行為連鎖として，名前と年齢，夫の仕事，きっかけをめぐるやりとりが明らかになったが，以下の抜粋では同様の行為連鎖に加えて，ローカルな行為連鎖（13–16 行目）が挿入されている。

抜粋 12（事例＃5）：いや初婚です

01	KB	どうぞ.＝((司会と出演者が着席))
02	YM	＝はいっ.
03		それではお名前とお年からどうぞ：.（(効果音))
04	夫	はいっ. .h 広島県（.）広島市から来ました（.）
05		神原一浩（(かんばらかずひろ)）（.）46 歳です：.
06	妻	妻（.）育美（.）47 歳です.
07	観客	((小さなどよめき))
08	KB	47 歳.
09	妻	はいっ.
10		(1.1)
11	KB	お仕事なんですか.（(夫の方に左手を向けて))
12	夫	はいっ. .h
13		〈宮田油業：株式会社といいましてですね： .h
14		まそこであの：(.) ドラム缶の配達(h)を(h)
15		£やっております£.
16		(0.7)
17	KB	バツ：(1.1) イチ同士とか（.）
18		そんな感じなんですか？
19	夫	いや初婚です.
20		(0.4)
21	KB	どちらも.
22		(0.3)
23	妻	はい.

24		(0.8)
25	KB	奥さん，(.) 何がどうなって (.)
26		[どうなったんです.
27	観客	[((笑い))
28	夫	hhh
29	妻	きっかけは：(0.2)
30	KB	きっかけは
31		(0.7)
32	妻	↑え　友人の：(0.9) 紹介です.
33		(0.5)
34	KB	お：(.) ほいで？
35		(0.4)
36	妻	周りの人が：
37	KB	[うん]
38	妻	[公　]務員は安定しているから[っていうことで：
39	YM	[そうね
40	KB	[は：は：は：は：

3 行目の YM による質問に対し，4 行目で夫が出身地，姓名，年齢で応じる。6 行目で，妻が関係性ペアの内ひとつ（妻）を用い，名，年齢と続けて，YM が開始した隣接ペアを完了させる。ここまでは上述の行為連鎖の通りである。しかし，7 行目で観客が小さくどよめく。これは直前の妻の発話に説明を要する内容が含まれているという観客の理解として聞くことができる。8 行目で，KB は妻の発言の一部を繰り返して（47 歳）妻の発話内容に含まれる特定部分を強調し，観客が説明が必要と解釈したのは，妻の年齢であるという KB 自身の理解を示す。繰り返しを含む KB の発話を，妻は年齢に関する確認であると解釈したことが 9 行目に示されている（はいっ）。映像を確認する限り，観客のどよめきは妻の見かけの年齢と実際の年齢にギャップがあり，実際の年齢よりも若く見える（しかも 46 歳の夫より実は年上である）という驚きを示している。見かけと実年齢に差があることは驚くべきことであるという常識に観客が志向しているということもできる。

11 行目で KB はルーティンに戻り，夫に職業を尋ねる（お仕事なんですか）。12–15 行目で夫が応答するが，17 行目で KB は仕事を話題にするのではなく，全く別の話題を選定して新たな隣接ペアを開始する（バツ：(1.1) イチ同士とか (.) そんな感じなんですか？）。KB の発話は，先行する行為連鎖で観客と KB が応答していた出演カップルの年齢に KB が志向していることを示している。また，KB の質問は「バツ：イチ」，「とか」，「そんな感じ」といったリソースを動員することで，婉曲的な質問としてデザインされている。婉曲的な定式化がされているということは，KB が「ある人をバツイチとして扱うことには慎重であるべき」という規範に志向しているからである。KB は「バツイチ」という社会的カテゴリーを持ち出し，出演カップルの年齢が「新婚」というカテゴリーと結びついた属性（若い）と相容れないという知識に基づく違和感を可視化し，出演カップルの「新婚らしくなさ」を探求し始めている。この潜在的なフェイス侵害行為（FTA）に対し，出演カップルの夫は「いや初婚です」と応答する。「いや」と否定するだけでは「バツイチ」ではなくても「バツニ」以上（番組にはこうしたカテゴリーに帰属する出演者もいる）ではあるかもしれないという含意が残る。だからこそ夫の発話はそうした危険性に志向し，「初婚」であるという「新婚さん」というカテゴリーに典型的な属性を「いや」とともに共起させるという発話のデザインを採用している。しかし，夫の発話デザインも疑念を払拭するまでには至らない。KB は 21 行

目で今度は妻の方に「どちらも」（初婚なのか）と問いかけて念押しすると，23 行目で妻が「はい」と肯定する。

25 行目で KB は新たな隣接ペアを開始し，次の発話を行う（奥さん，(.) 何がどうなって (.) どうなったんです）。この発話はお決まりの「奥さん，きっかけは」という質問が行われるのと同じ行為連鎖の位置に現れている。しかし，「奥さん」と呼びかけた後の発話において異なる定式化が行われている。「何がどうなって (.) どうなったんです」という発話には一種の同語反復が含まれており，丁寧な問いかけというよりは，質問した相手に問題を丸投げするような，投げやりな印象を与える問いかけになっている。司会者が自らの役割を放棄することは説明が必要な行為である。KB が「なぜ今ここで」投げやりな質問をするのかといえば，カップルの年齢が初婚であることを疑わせるほど高めであり，通常のカップルの出会いより複雑な出会いの経緯があり，司会者である KB の手にはあまるに違いないので，その複雑な経緯を知っている当事者に説明を委ねたいという KB の希望を投影しているといえる。実際，23 行目で観客が笑い，このように KB の発話を聞いたことが示される。28 行目では観客に続いて，夫も笑い，同様に KB の発話を聞いている。

29 行目で妻が隣接ペアの第二成分である応答を開始する（きっかけは：）。ここからは妻が語りのモードに突入して発言権を獲得し，KB は最小限の応答をするところである。しかし，30 行目で KB は「きっかけは」と繰り返し，最小限の応答よりも強い語りへの促しをする。強い促しが必要なのは，先行する行為連鎖で KB が説明の責任を妻に帰属させたことと関係がある。32 行目以降は妻が語り続ける一方，KB と YM は聞き手としてふるまう。

5. 考　察

5.1　番組における行為連鎖と成員性

抜粋の分析により，番組の制度性が明らかになった。まず，話者交替が非対称的に組織化されることで，参与構造が形作られていた。KB と YM は男女 2 名に対し「新婚さん」と呼びかけてステージ上に招き入れ，質問を投げかける司会と，それに応答する出演者というトーク上のアイデンティティを構築していた。しかし，司会者たちは同じ役回りを負っているわけではなく，KB と YM は異なる発話行為と会話に付随する活動を行うことを通し，主たる司会者とそれをサポートする補助的な司会者としてふるまっていた。異なる発話行為に従事するとは，KB がする質問と YM がする質問とが明確に区別されて配分されていたこと，YM がする質問はひとつだけであり（お名前とお年をどうぞ）それ以外の質問は KB が行うことを指す。司会者が従事する会話に付随する異なる活動としては，たとえば，KB が椅子から転げ落ちると YM が倒れた椅子を元に戻す一連の行為連鎖があった。

出演者の男女は「新婚さん」という呼びかけに応じてステージ上に登場することで，このカテゴリーを受け入れている。もちろん，番組に出演すること事体が「新婚さん」というカテゴリーを引き受け，自らそのようにふるまうということである。あるカテゴリーだから，そのようにふるまう，逆にあるカテゴリーのようにふるまうことによってそのカテゴリーとなるというのは，議論が循環しているが，成員性はカテゴリーとそれに付随する活動や属性が相互に照応し合うことによって成員間で達成されているといえる。また，「新婚さん」は女性と男性の関係ペアである。出演者はステージに登場して着席した後，行為連鎖を通して非対称性を形作り，男性は「夫」，女性は「妻」であることをしていた。男性出演者は姓名を述べる一方で，女性出演者は男性との関係性（妻）を特定した上で名だけを述べていたのである。さらに，カップルの出会いを尋ねる質問の受け手とし

てKBから指名され，応答するのは女性出演者の方であった。特に番組冒頭部の行為連鎖を分析した抜粋1–4において，こうした非対称性が社会のメンバーが思い描く夫婦という関係ペアに付随する権利と義務と結びついて産出されていることが明らかになった。

司会者と出演者，夫と妻といったカテゴリーはテレビ番組という状況において産出されたものであると同時に，文脈に即した形で産出されたものでもある。つまり，カテゴリーは自動的に生み出されるものではなく，個々の文脈において参与者間で達成されなければならない。これは「新婚さん」というカテゴリーについても同様である。出演者は「新婚さん」として番組に出演しているのだが，いかにも「新婚さん」というカップルがいるとしても，「新婚さんらしさ」は一連の行為連鎖の中で産出されている。これが明示的に示されていたのが事例＃5だった。このカップルが登場すると，妻の年齢に対して観客がどよめき，続く連鎖の中でKBが「バツイチ」という対照的なカテゴリーを持ち出して，カップルの「新婚らしさ」を問題視するというフェイス侵害行為を行っていた。夫は「初婚」というまぎれもないカテゴリーをすぐさま自らに適用して対抗し，KBの疑念を否定した。しかし，KBは妻に対して通常とは異なる定式化できっかけについて質問を投げかけることにより，正当性に関する疑念を解消してはいないことを示していた。KBの発話（奥さん，(.) 何がどうなって（.）どうなったんです）は，KBの悪意を可視化するものではなく，バラエティ番組という制度性，さらには落語家としてのアイデンティティに志向していることを表している。

また，この事例＃5のカップルが「新婚さんらしくない」と見なされ続けた背景には，「新婚らしさ」が家族の再生産に関わる営みを行うことと一体であり，新婚夫婦はその営みを行う行為者であるとする知の体系が垣間見える。岩上（2013）によると，20世紀以降の近代社会では結婚によってつくる生殖家族は若い成人の時期に果たされるべき最重要の達成課題となった。そのため，事例＃4のカップルは夫婦生活におけるより多くの問題を報告しているのにも関わらず，「新婚らしい」夫婦として扱われている。

本節でまとめたように，番組の参与者である新婚カップルは，番組中のお決まりのやりとりを通じて 新婚カップルであることをしていた。しかし，「新婚らしさ」を構築するのは出演カップルだけではなく，同じく番組の参与者である司会者や観客との共–構築が行われていた。番組の参与者は皆，社会の構成員であり，「新婚らしさ」とは社会のメンバーとして有する知識としての方法を実践することによって産出される構築物といえる。特に4.3節では新婚であることをする方法として，「問題の報告」の装いを持って開始される「のろけ話」に着目し，特定の文脈で適切な発話と応答を行うことで産出される「新婚らしさ」を示した（抜粋9，11）。このように番組の参与者たちが産出する「新婚らしさ」やそれに付随する現象を相互行為中において再特定化することは家族研究への方法論的貢献である。

5.2　対比，話題性，赤裸々さ

上述の抜粋が示す論点として，「新婚らしさ」は「新婚らしくなさ」と表裏一体であるという点が挙げられる。たとえば，極端な言動にまつわる逸話がそれである。出演者がパートナーに対する蔑称を用いたり（抜粋8「このハゲ：」），眉をひそめたくなるような属性を話題にしたりするのは，番組において逸話の話題性が問題になっているからだと考えられる。番組で語られるのは平凡な日常ではなく，語るに値し聞き手を驚かせるようなものでなければならない。たとえ話題性の高い逸話が導入されても，「そんなことをテレビで話すべきでない」というような発言をする参与者がいないということは，逸話を開始した出演者だけでなく，司会者や観客を含む聞き手たちが皆，番組では語るに値する話題性の高い逸話を語るべきであるという期待に志向していることを示している。

「新婚らしさ」に反するような逸話を導入することは，「新婚らしさ」との対比を利用して話題性を高める行為であり，「新婚らしくなさ」は参与者により協働的に拡張され展開されていく。

また，「新婚らしくなさ」の導入は，ライフステージの推移に参与者たちが志向していることを示している。つまり，ふたりが出会い，新婚生活を始めるということはあるライフステージ（出会い）から別のライフステージ（新婚生活）へと推移することである。しかし，新婚生活は単独で成立する安定したライフステージとはいえない。新婚生活は結婚生活あるいは夫婦生活の一部であり，独身の状態から非独身の状態への移行において生じる限定的な期間だからである。出演者の語りは結婚生活の限定的期間に符合することもあれば，抜粋 8 における蔑称の使用に見られるように，新婚生活以降の段階が始まりつつあることを示唆することもある。

出演者たちは新婚生活について語る上で，何もかも包み隠さず話しているように見える。こうした，いわば「赤裸々さ」とでも呼ぶべき印象はどのようにして生み出されているのだろうか。まず，出演者が語る内容がマスメディアという公的空間において夫婦の私的空間を暴露することと関係している。私的空間で起こる性に関わる事象であるとか，特に出会いの段階における互いの駆け引き，あるいは駆け引きというよりは打算と呼ぶのが適切であるような，利害と絡む個人の心的事象まで語られる。（抜粋では示していないが，事例 1 の夫は妻となる部下の女性を送るのにホテル街を通っていたと語ったり，事例 4 の妻が夫となる後輩の研修生に狙いを定めていたと語ったりするのである.）さらに，赤裸々さは内容だけではなく，語り方によっても生じている。司会者からの問いかけにより，出演者は「きっかけ」や「新婚生活」について語るのだが，ためらいつつ，強いうながしを繰り返し受けて語るというよりは，いきなり核心に迫るような語り口が赤裸々感を産出しているし，司会者も聞いてはいけないことを聞いたとひるむどころか，むしろさらなる語りを求めるのである。

一方，ここまでいろいろと語られる番組において，何が語られていないか考えてみたい。まず指摘できるのは，結婚式や披露宴，さらには新婚旅行についての語りがない点である。こうしたイベントは話題性が低いからかもしれないし，番組には時間的制約がありすべてを語ることはできないからかもしれない。典型的なライフステージとしては，出会い，結婚式，新婚生活という段階があり，結婚式はちょうど出会いと新婚生活の間に位置づけることができるが，司会が質問をするのは出会いと新婚生活についてであり，結婚式は話題として優先度が低くなっている。また，新婚生活を始めてから結婚式を行ったり，結婚式自体を行わなかったりという生活様式が選択されることが影響していると推察できる。

5.3　トークショーの醍醐味

本稿では主に番組内のトークに着目してきたが，番組内のテクストについても触れておきたい。『新婚さんいらっしゃい！』はトークを中心に構成されている番組であり，画面に文字テロップが表示されることはほとんどない。表示されるのは，番組タイトル，出演カップルの情報，出演者募集のお知らせくらいである。これは文字テロップを多用し，トークをさまざまな形で加工して提示するバラエティ番組の手法とは一線を画している。文字テロップを多用する方法は比較的新しい試みであり，1970 年代から続く『新婚さんいらっしゃい！』では放送当初からのやり方を踏襲していると考えられる。実際，番組を観ていると，ある種の古めかしさを感じる。また，文字テロップによる視覚的効果を利用するのではなく，トークというコンテンツで勝負しているといえるかもしれない。つまり，お決まりの問いかけを通してゲストにさまざまな物語を語ってもらい，司会の KB が脱文脈化や再文脈化といった操作によって喜劇的な効果を産出しているのである。

6. 結　論

日本の長寿バラエティ番組内の相互行為について論じてきた。番組の参与者たちは「新婚らしさ」について共有する知識を行為連鎖の適切な文脈で動員していた。特筆すべきは，文脈に即した「新婚らしさ」のやりとりが行われるのは特定のカップルだけではなく，どのカップルもその他の参与者とともに協働的に「新婚らしさ」を達成し，自らの正当性を勝ち取る必要があったという点である。（年齢的に）「新婚らしくない」とみなされかけたカップルだけでなく，（年齢的にいかにも）「新婚らしい」カップルであっても，番組中の相互行為において「新婚らしさ」を達成しなければならないというのが本稿の主張である。新婚なのに新婚らしくないがやはり新婚さんのそれである個々のストーリーは一般化を受け付けない。本稿は個々の文脈に埋め込まれた意味をめぐる活動の詳細を記述することを目指した。

番組構成上，男女のカップルが登場し，登場する際は手をつなぎ，司会者の応答は夫向けにデザインされたものと，妻向けにデザインされたものがあるといった意味において，番組における活動は「女らしさ」,「男らしさ」,「新婚らしさ」,「夫婦らしさ」といったさまざまな「らしさ」や「ライフステージ」をめぐる常識に支えられ，そうした日常知の体系を再生産している。しかし，参与者の活動が常識に支えられているということは，常識に束縛され支配される操り人形となっていることと同義ではない。社会のメンバーは常識に志向しつつも，刻一刻と変わる行為連鎖の中で，現実についての互いの理解を観察し調整することで「今・ここ」の文脈を生きているからである。番組がマンネリ化しつつも，いわば筋金入りのマンネリ化をすることによって 40 年以上にわたって放送が続いているのは，「新婚さん」によって十人十色（あるいは 4,000 組 4,000 色）の実践が生み出されてきたからかもしれない。制度的なトークとしての「新婚さん」の語りには，「新婚らしくなさ」との対比が用いられているとともに，話題性への志向を示す赤裸々さの構築が観察された。

本稿は 40 年以上続く番組にとっては限定的な放送回を収集したデータに基づいている。期間を広げてデータを収集し，今回の結果と比較することが有用だろう。また，番組には国際結婚をしたカップルが出演することもあるし，日本の国外で収録された回もある（Fukuda，2017）。さらに，番組を放送する朝日放送がコンテンツビジネスの一環として『新婚さんいらっしゃい！』をベトナムの制作会社にフォーマット販売し，2013 年からベトナムのご当地版が放映されている（岡松，2014）。こうした新しいデータを収集して「新婚らしさ」をめぐる意味生成活動を比較分析することにより，メディアにおける言語使用や家族の社会学への貢献を目指す研究プロジェクトを拡充していくことができるだろう。

《注》

（1） 長寿のバラエティ番組として 1982 年 10 月から 2014 年 3 月まで放送された『森田一義アワー　笑っていいとも！』がある。『新婚さんいらっしゃい！』は収録済の番組を毎週放送するという点で『笑っていいとも！』と異なるが，同一司会者による番組としてはより長く続いている。

（2）『新婚さんいらっしゃい！』に出演するカップルが男女とは限らない。2013 年には放送 43 年目で初の同性婚カップルが出演した（毎日新聞デジタル，2013）。

（3） 2013 年 12 月 29 日と 2014 年 3 月 30 日放送の 2 回分は本稿の分析から除外した。前者は司会者がかつて番組に出演したカップルを訪れる企画，後者は総集編。

（4） バラエティ番組というデータの性質について述べると，番組は制作スタッフによって事前に組み立て

られ，出演者はその指示を受けているという可能性が考えられる。しかし，本稿ではあくまで参与者たちが「今・ここ」でどのようなやりとりを行い，どのような社会的な認識を示しあっているか，という点を分析するものであり，上記の可能性（あるいは懸念）が分析の対象となるとしたら，制作スタッフによる演出に対して参与者たちが志向性を可視化する場合に限られる。

（5） 番組に登場する男女が「夫」と「妻」であることは社会のメンバーにとって自明である。同番組を見るとすれば，手をつないで登場する男女は「新婚さん」であるに違いない。そして，女性が妻で，男性が夫だろう。「新婚さん」は2つのカテゴリーからなるカテゴリー集合であり，成員カテゴリー化装置である。この装置は社会のメンバーが所有・運用・志向する知識の一部を構成している。なお，「新婚さん」には「～さん」という親密さを含意する語彙素が付与されているが，番組の企画立案作業について述べた尾上（2000）によると，番組タイトルで「しんこんさん」と「ん」で3回韻を踏むことでリズム感を出そうという狙いがあった。また，尾上は「永遠に続けることのできる番組を作ろう」としていたと述べている。桂（1976）も放送開始から数年の逸話を語っている。

（6） 山瀬まみは番組の活動に大きく寄与している。彼女は主に司会のアシスタントという役回りを担う。しかし，それは番組内における彼女の役回りの一部に過ぎない。山瀬によるカテゴリー操作を分析するには別稿が必要である。

（7）「がばい」は佐賀方言で「すごい」を意味する。桂文枝がここで言及しているのは，タレント，島田洋七の小説『佐賀のがばいばあちゃん』だろう。

（8） この後，KBは婿入りした銀行員の夫が「種馬としての務め」を果たしたというメタファーを用い，笑いを産出する。

（9）『新婚さんいらっしゃい！』ではこうした出演者募集などのお知らせを除くと，発話内容を画面に表示する文字テロップは用いられていない。

参照文献

Bilmes, Jack（2014）. Preference and the conversation analytic endeavor. *Journal of Pragmatics*, 64, 52–71.

Cameron, Deborah（2001）. *Working with spoken discourse.* London: Sage Publications.（林宅男訳（2012）. 話し言葉の談話分析　ひつじ書房）

Clayman, Steven, & Heritage, John（2002）. *The news interview: Journalists and public figures on the air.* Cambridge: Cambridge University Press.

Fukuda, Chie（2017）. Gaijin performing gaijin（‘A foreigner performing a foreigner’）: Co-construction of foreigner stereotypes in a Japanese talk show as a multimodal phenomenon. *Journal of Pragmatics*, 109, 12–28.

Francis, David, & Hester, Stephen（2004）. *An introduction to ethnomethodology: Language, society and interaction.* London: Sage Publications.（中河伸俊・岡田光弘・是永論・小宮友根訳（2014）. エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為　ナカニシヤ出版）

Furukawa, Gavin K.（2014）. *The use of English as a local language resource for identity construction in Japanese television variety shows.* Doctoral Dissertation, Department of Second Language Studies, University of Hawai‘i-Mānoa, Honolulu, Hawai‘i.

Hiramoto, Mie（Ed.）（2012）. *Media intertextualities: Semiotic mediation across time and space.* Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Hutchby, Ian（2006）. *Media talk: Conversation analysis and the study of broadcasting.* Glasgow: Open University Press.

岩上真珠（2013）. ライフコースとジェンダーで読む家族　第3版　有斐閣

片岡邦好（2013）. 行為と知覚のナラティブ：テレビCMのマルチモーダル分析から　佐藤彰・秦かおり（編）ナラティブ研究の最前線：人は語ることで何をなすのか，pp. 273–293. ひつじ書房

桂三枝（1976）. ああ，新婚さん500組：女性が強くなった分だけ男の弱さが目立つ　潮，314–319.

桂三枝（2007）.「新婚さんいらっしゃい！」の三十六年　文芸春秋，85(2)，124–126.

桂三枝（2011）．“新婚さん”を 40 年間見続けて：誰と一緒になっても大なり小なり問題はあるものです　婦人公論，96(13)，36-39.
桂三枝・林真理子（2012）．爆笑対談 桂三枝×林真理子「新婚さんいらっしゃい」：今も昔もオヨヨな夫婦がおりまして　文芸春秋，90(4)，342-349.
毎日新聞デジタル（2013）．新婚さんいらっしゃい！：放送 43 年目で初の同性婚カップル登場　初の欧州編 2013 年 07 月 10 日〈http://mantan-web.jp/2013/07/10/20130709dog00m200071000c.html〉（2014 年 5 月 9 日）
マリィ，クレア（2013）．「おネエことば」論　青土社
三宅和子（2004）．スポーツ実況放送のフレーム：放送に向けられた視聴者の不快感を手がかりに　三宅和子・岡本能里子・佐藤彰（編）メディアとことば　第 1 巻，pp. 94-127．ひつじ書房
西阪仰（1997）．第 2 章「日本人である」ことをすること：異文化性の相互好意的達成　相互行為分析という視点：文化と心の社会学的記述，pp. 73-103．金子書房
Ohara, Yumiko & Saft, Scott (2003). Using conversation analysis to track gender ideologies in social interaction: Toward a feminist analysis of a Japanese phone-in consultation TV program. *Discourse Society*, 14(2), 153-172.
岡松卓也（2014）．「新婚さん」ベトナムへ　長寿番組が開いた道（1）軌跡　日本経済新聞電子版　2014 年 5 月 27 日〈http://www.nikkei.com/article/DGXNASIH2000D_R20C14A5960E00/〉（2014 年 8 月 25 日）
尾上たかし（2000）．「新婚さんいらっしゃい！」長寿の理由　中央公論，115(13)，264-71.
東海林麗香（2006）．夫婦間葛藤への対処における譲歩の機能：新婚女性によって語られた意味づけ過程に焦点を当てて　発達心理学研究，17(1)，1-13.
東海林麗香（2009）．持続的関係における葛藤への意味づけの変化：新婚夫婦における反復的な夫婦間葛藤に焦点を当てて　発達心理学研究，20(3)，299-310.
梅本仁美（2007）．パフォーマンスにおける「オーディエンス」の位置づけ：漫才データ分析より　言語と文化の展望　刊行会（編）言語と文化の展望，pp. 429-444．英宝社
好井裕明（2010a）．女／男であること　串田秀也・好井裕明（編）　エスノメソドロジーを学ぶ人のために，pp. 76-94．世界思想社
好井裕明（2010b）．メディアに接する　串田秀也・好井裕明（編）　エスノメソドロジーを学ぶ人のために，pp. 96-115．世界思想社

参照ウェブサイト

新婚さんいらっしゃい！
〈http://asahi.co.jp/shinkon/〉（2018 年 12 月 5 日）